

NPO法人ありんこ公式ホームページ
arinngo.saku
ra.ne.jp

右のQRコードを読み込むと、ホームページを閲覧できます。



ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部

編集責任者 一戸 由佳

住所 青森県弘前市大字富栄
字笹崎80-1

電話 0172-96-2774

Fax 0172-55-9591

Let'sひま ☀️ チャレ!!!

「NPO法人ありんこ」公式ホームページでは「やよいのあかり」利用者様にお届けしたひまわりの成長、開花の様子を写真に撮って投稿していただくコーナーを設置しております。それぞれ趣向を凝らした素敵な写真が届きましたので一部ご紹介いたします。今後も多くの方が安心して楽しめる企画を考えて参りますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



メイつこさん



ゆうがさん



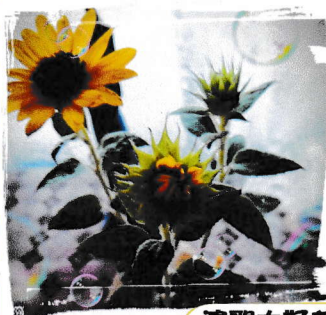
恋ちゃん



あいるさん



ぞら吉さん



演歌大好きさん

素敵な写真をありがとうございます！



Aさん

理事長のつぶやき

「分身の術を使う術(すべ)」

7月の後半、夏休みに入るとほぼ同時に急に私的に忙しくなった。幸い職場の方は、私が不在でもほぼ支障なく動かしてくれる仲間たちがいるので、その点とても心強かった。

8月の盆明けには更に、県をまたぐ移動後、念のため2週間自粛することにし、替ですっかり定着したようにみえるテレワーク、オンライン授業を経験した。娘の学校側が快く受け入れてくださり、柔軟に対応していただいたおかげで、オンライン授業ではクラスメイトや先生方の元気な様子をリアルタイムで共有できた。最初は不安そうだった娘も、回を重ねるごとに慣れてきたのか、画面をよく見て笑顔でいることが多くなった。

さて、在宅勤務に入る前、正直2週間もあれば、家の中はピッカピカになり、読み終えていない本も完読するのではないかと甘く考えていた。ところが、いざ始めてみると、1週目は自分の仕事の他に娘の介助があり、排泄のタイミングや食事など、時間で決まっているため、なかなか自分のリズムで仕事ができない。2週目になると娘のオンライン授業も始まり、間に合う様に時間配分をして、合間に食事の支度と介助など。夕方まで、文字通りあつという間である。一人が一人を支えることへの不安(特にぎっくり腰が怖い!)が常にあり、分身の術が使いたいと思う瞬間が多々あった。

そんな中、ふと、普段の生活では、自分の役割を一部社会資源に委ねるといふ「分身の術」を、既に使っていたのかもしれないと思ったのだ。なるほど、自粛期間中かなり辛いと感じたのは、「分身の術」が封じられたからに違いない。と、一人納得している。

Withコロナの秋 ~日常をどう取り戻すか~

このところ、「ありんこだより」では「私のおススメ」コーナーを掲載できずにいます。職員も不要不急の外出を自粛し、最低限の生活をしているため、生活の潤いを求めてのお出かけができずにいるからです。これは全国の人がほぼ同じだと思います。

日々のマスク、手指消毒は既に身につく、コンビニなど、手指消毒液が置いていない店に入ると不安になります。常に何だかソワソワしてしまいます。

まだ、残暑は厳しいですが、これからは屋外での活動が気持ちの良い季節になります。もちろん感染予防対策の徹底は引き続きとても大切ですが、その中で、冬が来る前に、少しでもみんなの気持ちをリフレッシュさせたり、ストレスを軽減することができるような機会を持てたらいいと思っています。

私たちが混乱することなく生活できているのは「医療従事者や、物流関係者等エッセンシャルワーカーと呼ばれる多くの方々の努力による」ということに感謝しつつ、日々の楽しさ、幸せを見つけて笑顔で過ごしていきたいものです。私たちの底力が試される秋になります。